

塩化チオニルリチウム電池の取り扱いについて

電池は、ガラスシールとレーザー溶接シールによる密閉構造で、リチウム、塩化チオニルを内蔵しており、使い方を誤ると、電池が漏液、発熱、破裂、発火したり、けがや機器故障の原因となるので、次のことを必ず守ってください。

警告

- ① 充電禁止
- ② 電池は、乳幼児の手の届かない所に置いてください。万一、電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。
- ③ 電池は絶対に充電しないでください。充電すると電池内の電解液が加熱され、ガスの発生で内部圧力が上昇したりして、電池を漏液、発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- ④ この電池は、指定された用途以外に使用しないでください。端子構造などが機器と適合せず、接触不良を起こしたり、仕様や性能が合わない場合があります。電池を漏液、発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- ⑤ 電池を火の中に入れてたり、加熱、分解、改造しないでください。ガラスシール部やベント部(ガス排出弁)などを損傷させたりして、電池を漏液、発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- ⑥ 電池の+(プラス)と-(マイナス)を逆にして使用しないでください。充電やショートなどで異常反応を起こしたりして、電池を漏液、発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- ⑦ 電池の液が目に入ったときは、目に障害を与えるおそれがありますので、こすらずにすぐに水道水などのきれいな水で十分に洗った後、医師の治療を受けてください。
- ⑧ 電池の液を舐めた場合には、すぐにうがいをして医師に相談してください。
- ⑨ 電池の+(プラス)と-(マイナス)を針金などで接続したり、また金属製のネックレスやヘアピンなどを一緒に持ち運んだり、保管しないでください。電池がショート状態となり、過大電流が流れたりして、電池を漏液、発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- ⑩ この電池に漏液や異臭があるときは、漏れた電解液で金属を腐食するおそれがありますので、すぐに廃棄してください。
- ⑪ 新しい電池と一度使用した古い電池、銘柄や種類の異なる電池などを混ぜて使用しないでください。特性の違いから、電池を漏液、発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- ⑫ 電池に直接はんだ付けをしないでください。熱によりガラスシール部やベント部(ガス排出弁)などを損傷させたりして、電池を漏液、発熱、破裂、発火させるおそれがあります。

- ⑬ 電池の外装ラベル(熱収縮チューブ)をはがしたり、傷つけないでください。電池がショートして、電池を漏液、発熱、破裂、発火するおそれがあります。
- ⑭ 電池に落下させたり、投げつけたりして、強い衝撃を与えないでください。電池を漏液、発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- ⑮ 電池を変形させないでください。電池のガラスシール部やベント部(ガス排出弁)などを損傷させたりして、電池を漏液、発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
- ⑯ 電池を保管する場合及び廃棄する場合は、電池をテープなどで端子部を絶縁してください。他の電池や金属製のものと混ぜると、電池がショートして発熱、破裂、発火のおそれがあります。

注意

- ① 電池は、直射日光の強い所や炎天下の車内などの高温の場所で使用、放置しないでください。電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。
- ② 電池を水などに濡らさないでください。電池を発熱させるおそれがあります。
- ③ 電池は、使用方法や機器によっては仕様や性能が合わない場合がありますので、機器の取扱説明書や注意書に従って、用途に適した電池を正しく使用してください。
- ④ 電池は、直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管してください。電池を漏液、発熱、破裂させるおそれがあります。また、電池の性能や寿命を低下させることがあります。
- ⑤ この電池は、一般の不燃ごみとして捨ててもよいことになっていますが、自治体の条例などの定めがある場合には、その条例に従って廃棄してください。
- ⑥ 機器のスイッチの切り忘れをしないように注意してください。
- ⑦ 包装より取り出した電池の保管する場合等は、電池がお互いに接触し、ショートすることのないように注意してください。
- ⑧ 塩化チオニルリチウム電池(3.6 v)は、指定された専用機器のみにご使用ください。